

理美容師の手袋着用に関するお客様意識調査
調査結果報告書（概要版）

調査概要

調査背景	<p>理美容師のヘアカラーによる皮膚トラブル経験者は消費者と比較してかなり多く、理美容師の皮膚トラブルを軽減していくためには、直接薬剤との接触をさけるために、手袋着用を推進することは急務です。直近の理美容師を対象とした定量調査（JHCIA調べ）では、理美容師の手袋着用率は「ヘアカラーの塗布時」が66.3%、「ヘアカラーの乳化や流し時」が33.7%であり、手袋着用率はかなり低値でした。</p> <p>また、サロン現場では以下のような状況があります。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中型、小型サロンでは、手袋を装着して施術すると、「お客様が嫌がるのでは？」との心理が働き、シャンプー時など手袋を着用しない傾向にある。・ 理美容師はヘアカラー塗布する際は手袋を着用するが、ヘアカラー放置中は別の作業等を行うため、一旦手袋を外してしまう。その後、ヘアカラーを流す際、あらためて手袋をつけることが面倒であり、素手で作業を行うケースもある。・ 一方で、大型サロンでは安全性に対する意識が向上し、理美容師自身を守るために手袋着用を推進するサロンが増えてきている。
調査目的	「理美容室でヘアカラーを施術する際、理美容師が手袋着用して一連の作業を行うこと」や「理美容師の手荒れまたは理美容師のヘアカラーによる手指・爪の汚れに対する印象」などについて、お客さまの意識（抵抗感や許容性など）を把握。
調査地域	全国
調査方法	Web調査（クローズ型モニターサンプリング）
サンプルサイズ	SC n=33,136 本調査 n=1,050
調査対象	20-69才男女（男性300名、女性750名） 理美容室で年に2回以上ヘアカラーで髪を染めており、理美容師が手袋を着用した状態でヘアカラーが行われたことがある方。
調査内容	理美容室でヘアカラーを施術する際の理美容師の手袋着用や理美容師の手荒れ 及び ヘアカラーによる手指・爪の汚れに対する印象に関する意識調査
調査実施日程	2021年8月26日（木）～9月6日（月）

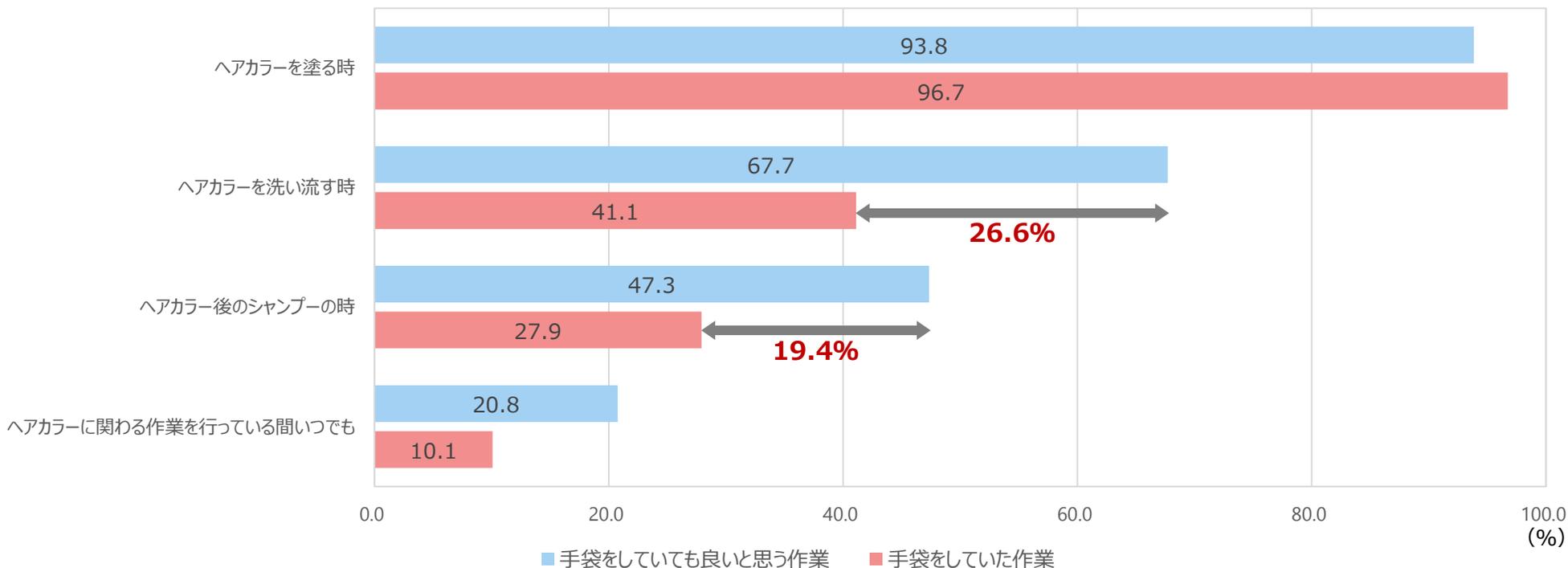
お客様からは、ヘアカラー時の手袋着用を望む声が非常に高い

- ヘアカラー時、理美容師が手袋をしている事について気にならない方が多く、全ての世代で**74.8%**以上、全世代平均では**82.6%**を占めている。
気になる方の理由でも「理美容師自身の手を守ることができて良い」が上位。
- ヘアカラー時、理美容師が手袋をしていても良いと思う作業では「ヘアカラーを塗る時」や「ヘアカラーを洗い流す時」等、**カラー剤に直接触れる可能性のより高い作業**が上位。「どんな時でも手袋を着用して欲しくない」は0%。
- ヘアカラー以外で手袋をしていても良いと思う作業があるかでは、主に**パーマ液に直接触れる可能性の高い作業**が上位。
- 理美容師の手指や爪がヘアカラーで染まっているのを見たことがある方や、手が荒れているのを見たことがある方が感じたことでは、**理美容師の身体を心配する声**が最も高いほか、**衛生面や安全面からも着用して欲しいと望む声も高め**。

ヘアカラー時、理美容師の手袋着用について	理美容師が手袋をしていることで、気になる事 上位	ヘアカラー時、理美容師が手袋をしていても良いと思う作業	ヘアカラー以外で手袋をしていても良いと思う作業がある		理美容師の「手指や爪がヘアカラーで染まっている」の見たことがある方が感じたこと 上位	理美容師の「手が荒れている」の見たことがある方が感じたこと 上位																				
			合計	上位																						
<p>(n=) (%)</p> <table border="1"> <caption>ヘアカラー時、理美容師の手袋着用について</caption> <thead> <tr> <th>世代</th> <th>気になる"合計" (%)</th> <th>気にならない"合計" (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全世代合計 (1,050)</td> <td>17.4</td> <td>82.6</td> </tr> <tr> <td>20代 (210)</td> <td>25.2</td> <td>74.8</td> </tr> <tr> <td>30代 (210)</td> <td>24.3</td> <td>75.7</td> </tr> <tr> <td>40代 (210)</td> <td>12.4</td> <td>87.6</td> </tr> <tr> <td>50代 (210)</td> <td>12.9</td> <td>87.1</td> </tr> <tr> <td>60代 (210)</td> <td>12.9</td> <td>87.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>■ "気になる"合計 ■ "気にならない"合計</p>	世代	気になる"合計" (%)	気にならない"合計" (%)	全世代合計 (1,050)	17.4	82.6	20代 (210)	25.2	74.8	30代 (210)	24.3	75.7	40代 (210)	12.4	87.6	50代 (210)	12.9	87.1	60代 (210)	12.9	87.1	<p>理美容師自身の手を守ることが出来て良い 54.3%</p> <p>気になる事はない 29.9%</p> <p>直接的な肌の接触が無くて安心した 25.7%</p>	<p>ヘアカラーを塗る時 93.8%</p> <p>ヘアカラーを洗い流す時 67.7%</p> <p>ヘアカラー後のシャンプーの時 47.3%</p> <p>ヘアカラーに関わる作業を行っている間いつでも 20.7%</p>	<p>合計 99.6%</p> <p>パーマ液の塗布時 84.4%</p> <p>パーマ液を洗い流す時 61.1%</p> <p>シャンプー時 40.5%</p> <p>常時 13.1%</p>	<p>理美容師の身体が心配 52.6%</p> <p>職業的に仕方がない 36.4%</p> <p>衛生面、安全面を考慮し、理美容師には手袋をしてほしい 31.5%</p>	<p>理美容師の身体が心配 66.3%</p> <p>衛生面、安全面を考慮し、理美容師には手袋をしてほしい 34.8%</p> <p>職業的に仕方がない 34.1%</p>
世代	気になる"合計" (%)	気にならない"合計" (%)																								
全世代合計 (1,050)	17.4	82.6																								
20代 (210)	25.2	74.8																								
30代 (210)	24.3	75.7																								
40代 (210)	12.4	87.6																								
50代 (210)	12.9	87.1																								
60代 (210)	12.9	87.1																								

理美容師が手袋を着用していても良いとお客様が思う割合は、実際の手袋着用状況よりも高い

お客様から見た、ヘアカラー施術時の「手袋をしていても良いと思う作業」と「手袋をしていたと認識している作業」



- ・手袋をしていた作業と、していても良いと思う作業では「ヘアカラーを塗る時」以外の全項目で、良いと思う数値の方が高い。
- ・「ヘアカラーを洗い流す時」では、全世代平均にて「手袋をしていても良い」と「手袋をしていた」の間で、**26.6%**の差が見られている。
- ・「ヘアカラー後のシャンプーの時」では、全世代平均にて「手袋をしていても良い」と「手袋をしていた」の間で、**19.4%**の差が見られている。

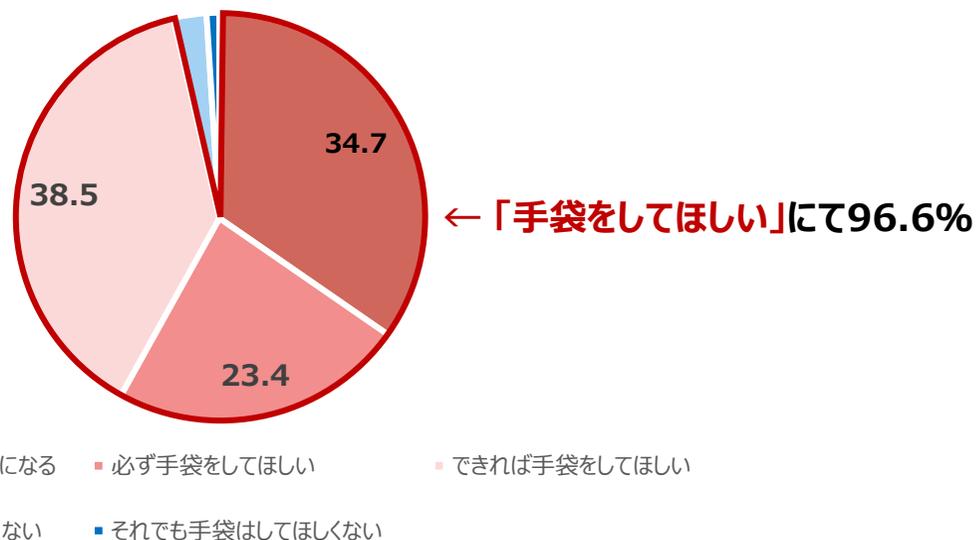
手袋着用の重要性をお客様が認識した場合、手袋着用を望む声が高い

下記の説明文をお客様が読んだ場合の手袋着用に対する意識

ヘアカラーを行う時、手袋をしていないと、理美容師の皮膚に肌トラブルが起こることがあります。
また、理美容師の肌トラブルについて、以下のことが分かっています。

- ・理美容師は一般の人よりも、手荒れを経験している人が多い
- ・手荒れをしていると、アレルギーを発症する可能性が高まる
- ・手袋着用は、理美容師の手荒れ防止の最も有効な手段である。

ヘアカラー時理美容師が手袋をしていることについて
どのように感じるか（説明後）



手袋着用により肌トラブルを防ぐことが出来る旨をお伝えすることで、お客様から手袋着用に対する理解をさらに得ることが出来ます。

- ・説明文を読んだ後における「手袋をしてほしい」と望む声は全ての世代で95%以上、全世代合計にて96%以上を占める
- ・「手袋着用が気になっていた人」でも、説明文を読んだ後、「手袋をしてほしい」と望む声が90%以上を占める